

研究代表者 所属・職：健康科学部・助教

氏 名：来島 修志

研究課題名：「名古屋市認知症予防事業リーダー」の育成・支援に関するアクションリサーチ

取り組み状況

本研究は「名古屋市認知症予防事業リーダー」の人材育成、及び地域における高齢者の互助のしくみづくりを支援するアクションリサーチを通し、行政と福祉会館、担い手となる地域住民、援助の対象となる住民がどのように関係を結び、連携し、互助のしくみが構築されていくのかを明らかにすることが目的である。

そこで、名古屋市より日本福祉大学に委託され実施してきた 2016 年度、2017 年度の名古屋市福祉会館認知症予防事業リーダー養成「回想法研修」の受講修了者に対し、受講動機、回想法や地域活動への意識、そして認知症やその予防、互助に対する意識等の変化、研修後の地域活動への波及効果について追跡調査を行った。

2 年間に渡る計 7 回の各研修前後にアンケート調査を継続して実施し、そのデータを基に分析を行った。また仮説に基づき 16 区を代表する 4 区のモデル区を抽出し、4 区毎に認知症予防リーダー数名のフォーカスグループインタビューを行った。なおリーダー同士及び各福祉会館の動向を情報共有するためのホームページ開設の取り組みは、予算の都合上、実行には至らなかった。

研究成果に関しては、日本老年社会学会第 60 回大会において「認知症予防普及・啓発リーダー養成事業における受講者の回想法に関する意識と活動意欲」というタイトルでポスター発表する予定である。

研究成果の内容

2016 年度 196 名、2017 年度 257 名、計 453 名のデータ分析より、以下の結果が得られた。

1. 研修受講までに回想法について知っていた方は知らなかった方に比べ、回想に対して好きと答える割合が高かった。

2. 回想に対する好感度の平均値は研修受講前に比べ研修受講後では若干高くなるが、有意な変化は見られなかった。

3. 回想法の活動を実施したいと答える割合は、研修受講前では居住区によって差があるとは言えなかったが、研修受講後では居住区によって差があることがうかがえた。

4. 研修受講までに回想法について知っていた方は知らなかった方に比べ、回想法の活動を実施したいと答える割合が高かった。

5. 研修受講の前後にかかわらず回想に対して好きと答える方はそうでない方に比べ、回想法の活動を実施したいと答える割合が高かった。

6. 回想法活動に対する実施意志の平均値は、研修受講前に比べ研修受講後では有意に高くなる変化が見られた。

7. 2016 年度においては 2017 年度に比べ研修受講前の回想法活動に対する実施意志の平均値が高く、研修受講後には若干高くなるものの有意な変化は見られなかったが、2017 年度においては有意に高くなる変化が見られた。

なおフォーカスグループインタビューの結果より以下のことがうかがえた。認知症予防リーダーだからこそ行える回想法があり、それは同世代や同じ体験をしてきたという共通性であり、語り手と聴き手が自在に行き来しながらともに語り聴くことにつながるものと言える。またリーダーはこれまでの地域活動やつながりを活かしながら、さらに新しい活動を生み出していく力をもっていると言える。